

合格体験談を聞く 3月15日 4,5年生対象

8名の卒業生が青陵での学習や合格をつかみ取るまでについて、後輩たちに向けて熱いメッセージを送りました。

放課後の「先輩を囲む会」にも多くの生徒が参加し、受験対策や構えについて耳を傾けて



放課後の『先輩を囲む会』



発表者のみなさん(上段左より)

長崎大学	医学部	W.Yさん
京都大学	農学部	E.Hさん
山形大学	医学部	A.Hさん
東北大学	工学部	I.Sさん
東北大学	理学部	O.Yさん

一橋大学	商学部	S.Kさん
東京大学	文科Ⅲ類	K.Sさん
早稲田大学	政治経済学部	S.Tさん

東大・京大 現役合格 2 名の合格体験記

東京大学 文科Ⅲ類 8 期生 K.S さん 「 東大で君を待つ 」

適性検査 48/100、作文 7/25。事実これが仙台青陵入学時の私の得点である。ところが、仙台青陵のカリキュラムを履修し、課題をもれなく期日内に提出し、先生方や仲間達と良好な関係を築き、部活動や体育祭・文化祭に全力で取り組みながらあっという間の 6 年間で過ごした結果、東大に現役合格できたというのが私の実感である。勉強法と言っても人それぞれであり、自分で試行錯誤しながら徐々に確立していくべきものなので、ここでは 6 年間の学習の振り返りを軸に話を進めたい。今後、高い志を持って進路達成をめざす皆さんの一助となれば幸いである。

1,2 年次は、週末課題をこなし日々の授業について行くのが精一杯だった。ターニングポイントは 3 年次。高校受験がない中高一貫校の利点を生かして、3 年から得意科目（世界史 B、英語）の高校範囲の予習を始めた。ここで英語か数学のどちらか一つでも武器にできる人は後々強い、と言われる。この時期に自分はどの教科・分野が得意なのかを問いかけ、自己分析をしてみることが非常に大事だと思う。得意科目を作ることは受験勉強を趣味感覚で行い、勉強そのものに対するモチベーションを下げないために大切だ。「之ヲ知ル者ハ之ヲ好ム者ニ如カズ。之ヲ好ム者ハ之ヲ楽シム者ニ如カズ。」である。続いて 4 年次に苦労したのは部活動との両立だ。1 人で頑張ろうとすると継続しにくい。そのため土曜日の半日練習の前後は教室に向かい仲間と一緒に勉強した。日曜日は練習試合となるが多かったが、それでもその日のノルマを設定して最低 2 時間は勉強時間を確保した。こうした休日のルーティンを 4 年次から続けることで、自分の生活リズムが維持され自然と勉強時間が増えた。部活は勉強時間を削るものではなく、リズムを整えるための効率的な手段であると逆転の発想をするとよい。次に 5 年次以降。私が、担任の鶴の一声で東大志望に変えることを決めた年だ。この時期に 1 番大きかったのは、共に受験を戦い切磋琢磨する仲間の存在である。放課後や部活後の教室、単語の問題を出し合う帰りのバス、休校期間中 LINE 電話をつないで勉強していたスマホ画面の向こう、そこにはいつも意識を高くもつ仲間がいた。自分のモチベーションが下がったとき、その間も努力を続ける仲間の勉強時間が自分を奮い立たせてくれた。また、受験勉強において、学びを得たときにそれを自己完結させないことがとても重要だ。勿論自分なりの考え方を見出すことを怠ってはいけませんが、自分なりの結論だけで満足してはいけけない。それを周りの友人に共有することでアウトプットし、自分になかった視点・思考過程を積極的にインプットしていくべきである。この過程こそが学びの本質であると言っても過言ではない。

最後に、私の合格は、間違いなく自分1人の力のみでは実現不可能であった。この場を借りて先生方、両親、仲間などお世話になった全ての方々に謝意を表したい。東大で仙台青陵の後輩諸君とともに学ぶ日を心待ちにしている。

京都大学 農学部 8期生 E.Hさん 「受験勉強を振り返って」

ここでは自分の受験勉強を振り返ってみて、学力が向上したきっかけについて記したいとおもいます。参考程度に見てください。

1回目に学力が伸びたと感じたのは、4年生の下半期に友達と一緒に青チャートを一周した時でした。ゲーム感覚で始めたことでしたが、その時に基礎の抜け落ちがいかにあるかということに気付かされました。分からないと思った部分は教科書まで戻りながら繰り返し解きました。数学に限らず、どの科目もわからなくなった時は基本から考え直すということは大事だと思います。英語であれば単語と文法、化学であれば反応の原理、生物なら単語の定義といった事です。6年生までにこれらが身についていると応用的な問題の理解がしやすくなるとおもいます。

2回目に学力の伸びを感じたのは、6年生の夏休み明けに過去問を本格的に始めた時です。過去問を解くことで苦手分野を明確にして、効率的に勉強することができました。最初は実際に解いてみてそれを自分なりに感じ取り、出題形式に慣れることを目的としてやってみるのがいいと思います。直前期には時間配分の調整や、英語や数学などは添削をしてもらい見直しをすることで自分がしやすいミスを減らすという目的で使用していました。過去問と似たような問題が出ることはよくあることなので、もう出ないからといって解いただけにしないで考え方が身につくまでしっかり復習するのがいいと思います。模試も一緒です。

勉強法は本当に人それぞれだと思います。自分に合うやり方で努力し続ければ合格に近づくとおもいます。受験期はつらいこともありますが、ぜひ第一志望合格を目指して頑張ってください。